

## 変わる私

## 変わらぬ自然

福岡県八女市  
八女市立矢部中学校2年

中司 京

私の住む矢部村にはたくさん自然があふれかえっています。まわりには、大きな木で埋めつくされた大きな山。足元には一生懸命に真っすぐ生えている草や可愛らしく咲いている花など…。

私は小学生の頃、太陽のあたたかい光と、大きな葉っぱをたくさんつけた木に囲まれた中で読書をするのが大好きでした。ベランダに椅子を出したり、ふかふかした草の上シートを広げたりして読んでいました。太陽の光のあたたかさ、そして

なにより、木から漂ってくるやさしいにおい、やさしい空気が大好きでした。

しかし、中学生になり、自分の時間が小学生の時よりも削られていく中で私は自然と触れ合いながら何かをすることよりも、シヨップिंगモールに行ったり、映画を観に行ったりすることが好きになりました。だから、

「なんで矢部には、シヨップिंगモールが無いと？」

とか、

「こんなにたくさんの木はいらんっちゃん」

と思うようになっていました。

そんなある休みの日、私は母とシヨップिंगモールに行くことになりました。とても楽しかったです。しかし、買い物を終えて車に乗るとき、

ふと空を見ると変な感じがしました。色がくすんで見えたのです。矢部だったら空の際まできれいに見えるのに、都会では遠くの方は灰色がかっていて、きれいとはいえませんでした。また周りには大きな木ではなく、ビルなどの大きな建物が並んでいました。

家に着いて空を見たとき、際の方まできれいに見えました。空気を吸うと心が落ち着くような感じがしました。

「空気がおいしい!!」

と思いました。すると、木のやさしいにおいが漂って着きました。そして改めて、「木は無くてはならないもの」だと感じました。私が気持ちの良い日々を送ることが出来るのは木がたくさんあるおかげだと思いました。毎日それがあたりまえになって

いて気付かなかった豊かな自然を、私はその日からもっと好きになりました。

そして、この経験から普段できない体験をしたとき、日常をふり返ってみようと思いました。そうすると、今まであたりまえになっていた気がなくなかったことを見つけることが出来るので、物事を見る視野を広げていけると思いました。

また私は矢部の自然がこれから先、変わってほしくないと思いました。だから私は社会人になって村を出たとしても、何らかの形で矢部と関わり、矢部の自然を守っていききたいと思えます。